



ヒーローズと「ノット・ゼロズ(not-zeros)」

欧州株式運用チーム

ネットゼロという遠い将来の目標の実現に向けてアクティブ・マネージャーは、持続可能な投資という主張が正当化されるよう企業との関わりを深めていく必要があります。

流行語を超えて

サステナブル投資が勢いを増し、ESGが高い関心を集める中、それに関する用語も進化を続けています。例えば、「ネットゼロ」と「カーボン・ニュートラル」のように、同じような言葉が使われていても、実際には全く異なる意味を持つことがあります。毎週のように新しい言葉が登場する中、意図的かつ正確に言葉を使うことは、ESG投資の全体像を理解するのに役立ちます。

このような背景の中、RBCの欧州株式運用チームが2022年以降に影響を及ぼすと考えるテーマの1つが「ゼロウォッシング (zero-washing)」です。最近のESGレポートで取り上げましたが、この言葉は、「グリーンウォッシング」と同様に、企業が何十年も先の未来にネットゼロを達成するという目標を主張しつつ、その達成方法についてほとんど実証も戦略も示していないと見なせ得る、という意味です。

持続可能性か、それとも単なる先送りか

目標を設定することは当然、必要な出発点ですが、一部の企業は、投資家からの圧力もあって、達成度合いの評価を避けるのに都合のいい長期的な目標を設定してしまう可能性があります。

しかし、ネットゼロの達成やその定義は簡単なことではないことを認識する必要があります。最初のネットゼロ目標は2017年にスウェーデンで法制化されました。ネットゼロは比較的新しい考え方と言えます。ビジネスと投資コミュニティの多くは、真のネットゼロ目標の設定に関して、データと知識が不十分なまま活動しています。

また、企業は比較的容易に、専門用語や曖昧な言葉の陰に隠れて、自らを持続可能であるかのように見せかけようとするのができます。この分野は、主観的であったり、あるいはまだ新しいという理由で、統一性が存在しないため、幅広い表現があることは理解できませんが、時には乱用されることもあるのです。例えば、国連のSDGsに賛同したり、レポートに取り入れたりしているにもかかわらず、目標や行動を設定せず、単に「見かけ倒し」の信用を勝ち得ているような企業などもあります。

要するに、企業はやっていると言っていることをやっていないということです。これは偽善の一形態であり、露見すればますます許されなくなります。

変化する展望

ネットゼロ目標が企業戦略の一部であることが期待される中、投資家や消費者には、経営者が明確で実行可能な戦略を伴っていること、そして、それらが定期的かつ詳細なレベルで設定されていることを確認する責任があります。実証に基づく目標と測定基準は、ネットゼロ・アジェンダの次の重要項目です。

企業だけでなく、資産運用会社にも、その主張の信頼性を確認する義務があります。企業には、ネットゼロ目標を戦略的に計画し、実施するよう求める圧力があるのと同様に、資産運用会社には、企業の主張を額面通りに受け止めないよう求める圧力があります。

アクティブマネージャーは、経営陣と関わり、厳しい質問を投げかけ、適切なサポートを提供することが重要です。しかし、企業同様、投資家にとっても、ネットゼロ目標の計算方法は様々であり、複雑であることに留意する必要があります。例えば、SBT（Science Based Targets）やNet Zero's Asset Owners Allianceのアプローチは、ポートフォリオレベルで計算した場合、異なる数値を示すことがよくあります。企業が計画にスコープ3の排出量を含めていない場合（それ自体問題ですが）、投資家はスコープ3の排出量を含めることを求め、この問題に関して企業と対話すべきでしょうか。

細部にわたる企業の取り組み事例

当社のポートフォリオ投資先のうち、ネットゼロ目標が明確な企業の一例として、クリーンエネルギーで業界をリードするエネルギー会社が挙げられます。この会社は、国際エネルギー機関（IEA）の持続可能な開発シナリオに基づき、事業戦略を策定し、カーボンプレッジに沿った事業展開を行っています。環境負荷低減技術の研究開発に注力し、年間売上高の5%を研究開発に投資するなど、業界をリードしています。具体的には、2025年までにスコープ1と2のカーボン・ニュートラル、2030年までにはカーボン・オフセットせずにそれを達成、2040年までにはカーボン・オフセットによってバリューチェーン（スコープ1、2、3）のカーボン・ニュートラル、2050年までにはカーボン・オフセットを活用せずにそれを達成、という明確な長期ロードマップを設定しています。

また、進捗状況やコミットメントを把握するため、短期的なサステナビリティ目標やイニシアティブも設定し、定期的に見直しています。例えば、ゼロ・カーボン・プロジェクトでは、同社の総炭素排出量の70%を占める上位1000社のサプライヤーと提携し、2025年までに各社の事業における炭素排出量を半減させることを目標としています。同社はすでに、サプライチェーンにおける二酸化炭素排出量の削減に積極的に取り組んでいます。過去12年間、工場と配送センターのエネルギー消費量を3年ごとに10%ずつ削減することに成功しました。現在、30のゼロエミッション施設を運営しており、今後5年間で150以上の施設を追加する予定とのことです。

私たちは、同社が顧客、自社の事業、バリューチェーンにおいてネットゼロ目標を達成するための強固な枠組みを有していると考えています。広範囲にわたって投資先企業がESG活動を継続していることに勇気づけられます。多くの企業が現在の方針を発展させ、規制や消費者の期待以上のことを積極的に行うことで、時代の最先端を走り続けています

結論

私たちは、投資対象の中で最も優れた企業に投資することで、投資家の皆様に確かなリターンを提供することを目指しています。企業ごとに、当社独自の分析とスコアリングを行い、企業やそのステークホルダーにとって最も重要となる要素を、ファンダメンタル、及びボトムアップによるアプローチで調査します。私たちは、フィードバックを繰り返すことで、企業が私たちの意見や懸念を認識し、企業がより持続可能な事業環境に向けた活動を促進するよう、取り組んでいます。

私たちは、これからもESGの重要な動向に気を配り、お客様のために時代をリードできるよう取り組んでいきます。私たちの役割は、常に、こうした動向の意味を詳細に理解し、重要だと思われることをサポートし、その上で、それに応じたポートフォリオ運営を行っていくことです。

当資料は、RBC Global Asset Managementの一部であるRBC Global Asset Management (UK) Limitedによって提供された情報を元に、RBC Global Asset Managementの関連会社であるブルーベイ・アセット・マネジメント・インターナショナル・リミテッドが編集したものです。当資料は受領者への情報提供のみを目的としています。当資料の全部または一部を複製することはできません。また、RBC Global Asset Managementの同意なしに他人に配布することもできません。当資料は、証券またはその他の金融商品の売買または投資戦略への参加の申し出を勧誘するものではなく、税務または法律上の助言として解釈されるべきではありません。ここに記載されているすべての製品、サービス、または投資がすべての法域で利用できるわけではなく、地域の規制および法的要件により、一部は限定的にのみ利用できます。

過去の実績は将来の結果を示すものではありません。このレポートに含まれる情報は、RBC Global Asset Managementおよび/またはその関連会社によって、信頼できると思われる情報源から編集されていますが、その正確性、完全性、または正確性について、明示または黙示を問わず、表明または保証は行われません。すべての投資で、投資額の全部または一部が失われるリスクがあります。

この資料には、RBC Global Asset Managementの現在の意見が含まれており、特定のセキュリティ、戦略、または投資商品の推奨を意図したものではなく、またそのように解釈されるべきではありません。特に明記されていない限り、ここに記載されているすべての情報と意見は、このドキュメントの日付時点のもので、ここに記載されているすべての情報および意見は、予告なしに変更される場合があります。

RBC Global Asset Management (RBC GAM) は、カナダロイヤル銀行 (RBC) のアセットマネジメント部門であり、RBCグローバルアセットマネジメント (US) Inc. (RBC GAM-US)、RBC Global Asset Management Inc、RBC Global Asset Managementが含まれます。(UK) Limited、BlueBay Asset Management LLP、BlueBay Asset Management USA LLC、およびRBC Global Asset Management (Asia) Limitedは、別個ですが、関連する企業体です。

RBC Global Asset Management (UK) Limitedは、金融行動監視機構によって認可および規制されています。

®/™ Trademark(s) of Royal Bank of Canada.

